

沖縄県国頭村奥方言の動詞形態論の概要

狩俣 繁久¹ 島袋 幸子²

1 奥方言の動詞

奥方言の動詞は、語彙的な意味として、人やものの動作、変化、状態、存在等を表し、アスペクト、ヴォイス、もくろみ、みとめかた、ムード、テンス等の文法的なカテゴリーをもっている。連語論的には、連用的な形式によってかざられ、連体修飾語として名詞をかざる。構文論的には、主として述語として機能する。そのような語彙的な特徴と文法的な特徴によってほかの品詞から区別される。

形態論的なカテゴリーは、それを構成する形態論的な形をパラディグマティックな体系に統合する一般化された意味・特徴である。奥方言の動詞のもつテンス、アスペクト、ムード、みとめかた等の個々の形態論的なカテゴリーは、語尾のとりかえ、派生（文法的な接尾辞）、補助的な単語との文法的なくみあわせによって表されるものがある。動詞の文法的な形は、せまい意味での活用形と派生動詞との二つの軸によって整理することができる。せまい意味での活用形は、語尾のとりかえ、助辞の膠着によって表されるが、一部に形式名詞とのくみあわせによるものがある。語幹と語尾の境界は・で示し、単語形式に助辞が膠着する境界は＝で示す。特定の活用形と補助的な単語のくみあわせは、間にスペースを設ける。

奥方言の動詞は、構文論的な機能を表しわける文法的な形として「終止形」「連体形」「連用形」「条件形」の形式がある。終止形は、いいおわりの位置に現れて述語としてはたらく文法的な形式である。

奥方言の終止形は、アスペクト、テンス、ムードの体系をなし、個々の形式は、それぞれに固有のアスペクト、テンス、ムードの意味を表現する形式である。連体形はムードのカテゴリーを欠く。条件形は、従属文の述語の位置に表れて、主文にさしだされる出来事の様々な条件づけられ性を明らかにする形式である。連用形は、二つの動作の間の時間的な関係を二つの述語によって表すとき、まえの述語の形式である³。

¹ 琉球大学・島嶼地域科学研究所。

² 琉球大学・島嶼地域科学研究所

³ 本報告のデータは、国頭村奥集落出身で奥在住の話者2名、N・S（S9年生、F）、M・M（S4年生、F）、H・T（S9年生、F）、M・H（S8年生、F）、M・S（S9年生、F）、への面接調査によるものである。

2 アスペクト

奥方言のアスペクトは、完成相と継続相の対立を基本としている。

完成相非過去形

非過去形は、未来のひとまとまりの動作を表す。

- 1) asa=N umi=Nkai ik-u-N.
明日も 海へ 行く。
- 2) aNma:=ja asa: to:kjo:=Nkai kwa:=ni it-te:-ga ik-u-N=do:.
母が 明日 東京に 子に 会いに 行くよ。
- 3) ak'ira=t'u waN=t'u t'ai=ji ik'-u-N=do:.
アキラと 私と 二人で 行くよ。
- 4) su:=ja uNme:=ga ja:=Nkai hu-i-N.
今日は おじいさんが 家に 来る。

存在動詞の非過去形は、現在の状態を表す。

- 5) aN jama=ne:ti jamafi=nu u-i-N=do:.
あの 山に イノシシが 居るよ。
- 6) p'ida=ne: gama=nu a-ti iri=ne:=ja paka=nu a-i-N.
東には 洞窟が あって 西には お墓が ある。

非過去形は、時間的な局所限定のない反復的な動作や習慣、特性も表す。

- 7) taro:=ja me:nitji gakko:=nu me:=ne: uri:-N.
太郎は 毎日 学校の 前で 降る。
- 8) itji=N iru=ja su:ta:=ga ho:r-u-N.
いつも 魚は お父さんが 買う。
- 9) utfina:=nu t'u=ja nabe:ra: kam-u-N.
沖縄の 人は ヘチマを 食べる。
- 10) taro:=ja eigo=nu hoN jumibu:s-u-N.
太郎は 英語の 本が 読める。

完成相第一過去形

- 11) guNda mi-tji uduru-t'a-N.
クジラを 見て、 おどろいた。
- 12) hudu=ja p'a:ti atabita=nu hita:N ji-da-N.
去年は ひでりで カエルが たくさん 死んだ。

13) hame:, ami=nu puipadzimi-ta-N.

あ、雨が 降り始めた。

14) mukaʃi=ja hikatu hiN hu-da-N.

昔は よく 舟を 漕いだ。

完成相過去形

第二中止形と同音形式の過去形があり、完成相過去を表わす。

15) muka=ʃi: iNdanaba: e:-ti.

糠で 苦菜を 和えた。

16) gadami=ni ku:r-at-tʃi

蚊に 食われた。

17) p'e:=nu tʃija=ne: tuma-ti.

ハエが 顔に とまった。

18) uttʃi=hara hadzi tsu:ku na-ti=ja:.

一昨日から 風が 強く なったなあ。

完成相第二過去形

19) hubagasa hat-tʃi saba kum-u-t'a-N.

くば笠を かぶって ぞうりを はいていた。

20) tahu=nu takkwa-ti jam-u-ta-N.

タコが くっついて 痛かった。

21) jagati tʃawaN utus-u-ta-N.

あやうく 茶碗を 落とすところだった。

22) mukaʃi=ja uguma kam-u-ta-N=do:.

以前は ゴマを 食べたよ。

継続相

奥方言の継続相を表す形式には、主として主体変化動詞の表す主体の変化結果の継続を表す形式と、主体動作動詞の表す動作の継続を表す形式の二つがある。

前者は、中止形に uN（居る）が文法化して組み合わせさせた融合した形式（nudi+uN>nudo:N）である。後者は、中止形に akkuN（歩く）が文法化して組み合わせさせた融合した形式（nudi+akkuN>nuda:kuN）である。前者を第一継続相、後者を第二継続相と名づける。

第一継続相

主体変化動詞が第一継続相の形をとって述語になるとき、主体の変化結果が継続してい

ることを表す。

- 23) mitʃi=ne: atabita=nu ʃi-do:-N.
道路で カエルが 死んでいる。
- 24) taro:=ja hudu=hara to:kjo:=Nkai i-do:-N=do:.
太郎は 去年から 東京に 行っているよ。
- 25) hanako=a kinu:=hara jaNme:=ʃi: nit-to:-N.
花子は 昨日から 病気で 寝ている。
- 26) du:=nu tʃiritiN it-to:-N.
尾が切れても、生きている。
- 27) aʃʃi=ja iNdʒij-aN gutu=ʃi hakugu=ʃi: mut-to:-ta-N.
松明を 濡らさない ように 大事に 持っていた。

状態

人や物が数多く存在することを表す状態動詞 guNdo:N は、第一継続相の形式しか有しない動詞である。

- 28) isuku guN-do:N
いところが たくさんいる。
- 29) ?naNma=ja munu=nu guN-do:-N.
今は ものが たくさんある。
- 30) taro:=ja mi:=nu su:ta:=ne: dziko: ni-to:-N.
太郎は 眼が 父に よく 似ている。
- 31) huN muʃi=ja gata=ne: ni-to:-N.
この 虫は バッタに 似ている。

第二継続相

主体動作動詞、主体動作客体変化動詞が第二継続相の形をとって述語になるとき、主体の動作継続を表す。

- 32) tiN=hara su:sadzi=nu tu-da:-k-u-N.
空を 白鷺が 飛んでいる。
- 33) tʃiNnanfe:=nu jo:Nna: uN-ta:-k-u-N.
カタツムリが ゆっくり 動いている。
- 34) ju:=nu pu-ta:-k'-u-N=do:.
湯が 沸いているよ。
- 35) p'e:=hara nama hibufi=nu idzi-ta:-k-u-N.
灰から まだ 煙が 出ている。
- 36) hama=ʃi: ju: puka-ta:-k-u-N.
釜で 湯を 沸かしている。

37) ami=nu p'i:=ja saburo:=ja ja:=ne: maNga=beN=du ju-da:-k-ur-u.

雨の日は三郎は家で漫画ばかり読んでいる。

38) papp'a:=a nibaNdza=ne: terebi mi:-ta-k-u-N=do:.

祖母は二番座でテレビを見ているよ。

39) sa:ru:ge:=nu daNdaN ka-da:-k-u-N.

カマキリがセミを食べている。

次の例は、再帰動詞が述語になっている。最初の例は、第一継続相が述語に現れ、主体が身に着けた状態（変化結果の継続）であることを表している。二つ目の例は、第二継続相が述語に現れ、主体が衣装類を自らに身に着ける行為を行っている最中であることを表している。

40) aN kwa:=ja afida=du ku-do:-r-u.

あの子は下駄を履いている。

41) tʃiNtu ?naNma tabi=du ku-da:-k-u-r-u

ちょうど今、足袋を履いている。

結果相

42) dʒiro:=ja habi=fɪ: koinobori hiku-te:-N.

次郎は紙で鯉のぼりを作ってある。

43) uNme:=ga tʃiburu=ne: sadzi kut-te:-N.

祖父が頭にタオルをしぼっている。

44) uimi=nu posuta:=ja ko:miNkwaN=nu paʃi:=ne: pa-te:-ta-N=do:.

祭りのポスターは公民館の戸に貼ってあったよ。

45) usa: iNnukwa:=nu kwa: na-te:-N.

うちの犬が子供を産んである。

終結相

無情物の不存在を表す動詞 ne:-N も有情物の存在を表す ui-N が継続相のアスペクト形式を作る語彙的資源になり、無情物の存在を表す ai-N が結果相のアスペクト形式をつくる語彙的資源になるのと同じく、ne:-N は、終了限界まで達した動作や変化を表す終結相のアスペクト形式を作る語彙的資源になる。話者たちは、この終結相を「～してしまった」と訳することが多いが、この形式には過去形があるので、「～してしまっている」のように非過去形に訳するのがよい。

46) taru=neN hikaN=guto:=N hitʃi-ti ne:-N.

誰にも聞かないで、捨ててしまっている。

47) uttu=ja aNme:=ne: purimuN=tʃi itʃi ne:-N.

弟は兄に「ばか」と言ってしまっている。

48) atʃiha-nu ja:=nu ma:uta=N ʃi-dʒi ne:-N.
暑くて、家のネコも死んでしまっている。

49) bapp'e:-ʃi: hi-ti ne:-N.
間違えて、蹴ってしまっている。

3 授受表現

現在、確認できている奥方言の授受動詞は、t'a:suN と hu:iN の 2 系列である。t'a:suN は、主語から相手対象の補語に向かう所有権の移動を表す。人称の制限がなく、「やる・あげる」と「くれる」を表す。t'a:suN には t'urasuN の語形もあらわれる。t'a:suN は t'urasuN の音韻変化した語形で、t'urasuN は、沖縄本島中南部方言の語形と同形である。hu:iN は「乞う」に対応し、「もらう」の意味を表す。補語の相手対象から主語に向かう所有権の移動を表す。二項対立の変種である標準語の授受動詞と異なり、ある意味で完全な二項対立である。

50) p'app'a:=ja waN=ne: dʒiN t'a:-t'a-N.
おばあさんは私に お金を くれた。

51) waN=ja mi:kk'wa=ne: dʒiN t'a:-t'a-N.
私は 姪に お金を あげた。

52) tʃide:kuni hita:N hu:-ti mina=ʃi wahi-ta-N.
ニンジン を たくさん もらって みんなで 分けた。

53) hu:-ha-ru gani=ja taru=N hu:-ra-N.
小さい カニは 誰も もらわない。

t'a:suN は授受表現を表す述語をつくる補助動詞になる。hu:iN は授受動詞としての使用は可能だが、授受表現をつくることはできない。授受表現は、主語から補語の相手対象に行為の向かうタイプだけの単項型である。なお、相手対象の補語から主語に向かう行為を表すときは、使役動詞を述語にした文が用いられる。このとき利益性・不利益性については中立である。

54) taro:=ja uttu=ne: kwa:ʃi wahi-ti ta:-ta-N.
太郎は 弟に 菓子を 分けて やった。

55) kadzuko muN=tu junu kutsu hanako=ne:=N ho:-ti ta:h-a.
和子の ものと 同じ 靴を 花子にも 買って やろう。

56) ura=hara satʃi=ni uri-ti ta:ʃi=ja.
君が さきに 降りて くれ。

57) uttu=ni=N niseNeN t'a:-tʃi t'ur-aʃi.
弟にも 2000 円を やって くれ。／あげてやれ。

- 58) hanako=ja aNma:=ne:ti munu kam-ah-at-ta-N.
花子は 母に ご飯を 食べさせられた。食べさせてもらったの訳

4 可能動詞

- 59) taro:=ja eigo=nu hoN jum-i-bu:s-u-N.
太郎は 英語の 本が 読める。
- 60) hanako=ja muka:fi=hara saNfiN pik-i-bu-su-N.
花子は 昔から 三線が 弾ける。
- 61) huri usa: k'wa:fi dat'u, ura=ja kam-ar-aN=do:.
それは 私たちの お菓子だから、お前は 食べられないよ。

5 ムード

奥方言の動詞の終止形は、文のいい終わりの述語としてはたらいて、文の表すモーダルな意味を表現するセンターとなる。認識的ムードと関わる形式と意志的ムードと関わる形式がある。意志的ムードはさそいかけ法と命令法がある。

5. 1 認識的ムード

認識的ムードには、叙述法、質問法がある。叙述法には断定と推量がある。断定と推量は、テンスのカテゴリーにしたがって非過去形と過去形の対立がある。断定を表す形式は、非強調形と強調形がある。

非強調形の非過去形

- 62) ha:ri:=ja uNgaNsa:=nu hiN hug-u-N.
ハーリーでは 男たちが 舟を 漕ぐ。
- 63) uttu=ja num-iwa tade:ma uir-u-N.
弟は 飲むと、すぐに 酔う。
- 64) isa=nu t'a:t'a-ru kusui num-i-ba no:r-u-N=do:.
医者 の くれた 薬を 飲めば 治るよ。
- 65) to:pu=ja to:pumami=fi: hiku-i-N=do:.
豆腐は 大豆で 作るんだよ。

強調形の非過去形

強調形は、文中に焦点化助辞 du をふくむ文の述語として使用される。

- 66) u:uma=ru t'u: hi:-ru.

オス馬が 人を 蹴るのだ。

67) saki=ja suido:=nu midzi=fj:=ru hiku-i-ru.

酒は 水道の 水で 作るんだ。

68) ami=nu p'i:=ja saburo:=ja ja:=ne: naNga=beN=du ju-da:-k-u-ru.

雨の 日は 三郎は 家で 漫画ばかり 読んでいる。

69) pari-to:-ru p'i:=ja saburo:=ja umi:=dzi iru=beN=du kwa:s-u-ru.

晴れた 日は 三郎は 海で 魚ばかりを 釣る。

次の例に見るように焦点化助詞 *du* が文中にあっても文末の述語に強調形のあらわれな
い場合が多い。

70) basu=ja p'i:=ni mine:=du a-i-N=do:.

バスは 一日に 三回 ある。

71) aN k'wa:fj:=ja natt'a:=ga=du iNsagi-t'i=na:.

あの 菓子は あなたがたが 召し上がったの？

72) afi: de:hutu naNma dzibuN aNt'u=ja tfa:=du nu-da:-k-u-ru padzi.

お昼だから今頃あの人はお茶を飲んでいるだろう。

73) ipidu nu-do:-si-ga ui-to:-N.

少ししか 飲んでいないのに、酔っている。

非強調の過去形

第一過去形

74) uNme:=ja hitumiti=hara jama=Nkai mimigui tu-i-ga i-da-N.

祖父は 朝から 山に キノコを 取りに 行った。

75) ma:uta=nu puha=hara ja:=N utfi=Nkai ittfit-t'a-N=do:.

猫が 外から 家の 中に入ってきたよ。

76) jinugu=nu ba:=ja papp'a:=ga:deN udu-ta-N.

シヌグの ときは 祖母まで 踊った。

77) naNma=ta:na tfaku=nu u-i-ta-N.

さっきまで 客が いた。

強調の過去形

文中にとりたて助辞 *du* の接続する成分と呼応して現れる。終止形は、非強調形の過去
形の語末の *N* を *ru* に替えて作る。

78) miNna dzabutoNne:ru bi-ta-ru.

みんな ざぶとんに 座った。

79) mukafija basagiNdu k'i-ta-ru.

昔は 芭蕉布を 着た。

推量形

- 80) ho:rimuN suru ba: saihu utu-ta-ru padzi.
 買い物 する とき、財布を 落としたみたいだ。
- 81) aN t'u=nu saba=nu aihutu t'o:-ru padzi.
 あの 人の草履が あるから、来ているだろう。
- 82) p'ani=nu tʃiraba-to:-hutu nu:gara=ne: ʃij-a-ta-ru padzi.
 羽が 散らばっているから、何かに やられただろう。
- 83) aʃi: de:hutu naNma dzibuN aNt'u=ja tʃa:=du nu-da:-k-u-ru padzi.
 お昼 だから 今頃 あの人は お茶を 飲んでいるだろう。

質問法

奥方言の質問法には、肯否質問文の述語になる専用形式と疑問詞を含む疑問詞質問文の述語になる専用形式とがある。これは他の沖縄語諸方言と同じである。

肯否質問の非過去形

肯否質問の非過去形は、叙述法過去形の語末に終助詞 na を後接させてつくる。

- 84) dʒiro:, huN nimutʃi basutei=ga:de: hatami-ti idʒi tur-ah-a-N=na:.
 次郎、この 荷物を バス停まで かついで 行って くれないか。
- 85) ura=ja nabe:ra kam-u-N=na:?
 君は へちまを食べるの？
- 86) aN k'wa:ʃi=ja na:=ga=du iNsagi-t' i=na:.
 あの 菓子は あなたが 召し上がったの？
- 87) hitumitimuN=ja ka-dʒit-tʃi=na:?
 朝食は 食べてきたか？
- 88) munu=ja ka-dʒit-tʃi=na:.
 飯は 食ってきたか？

疑問詞質問の非過去形

疑問詞質問文の述語には、非強調形の非過去形の語末の N を ga に取り換えた形が使用される。

- 89) nagu=hara naha=Nta:na basutʃiN=ja iʃita: su-N=ga.
 名護から 那覇まで バス賃は いくら するか？
- 90) taro:=ja itʃi to:kjo:=hara ke:-ti hui-N=ga.
 太郎は いつ 東京から 帰って くるの？
- 91) nu: ho:r-i=ga ik-u-N=ga

何を 買いに 行くの？

92) ikutʃi ho:r-u-N=ga

いくつ 買うの？

疑問詞質問の過去形

疑問詞質問文の述語には、第二中止形の語末の母音を伸ばした形式が現れる。非強調形の過去形の語末の N を ga に取り換えた形も使用される。

93) huri=ja da:=hara ho:-ti:.

それは どこで 買ったの？

94) huri=ja da: matʃija=hara ho:-ti:.

それは どの 店で 買ったの？

95) nattaja itʃi mo:-tʃi.

あなたたちは いつ 来たの？

希求法

話し手自身の欲求、欲望、意欲を表す形式として希求法の形がある。希求文の述語になる形式は、numibusa:-N（飲みたい）のような、動詞の語基に busa:-N のついた形式がある。しかし、busa:-N をつけた述語は、形容詞と同じ活用の型を示し、文法的な派生形容詞だとかんがえられる。この形式を動詞のムードの体系のどこにどう位置づけるかについては検討したい。

96) waN=ja irabutʃa:=nu namaʃi=du kam-i-bu-sa:-N.

俺は イラブチャーの 刺身が 食いたい。

意志的ムード

意志的ムードには命令法と勧誘法がある。

命令法

命令法文の述語の命令形は、二人称に対して動作の実現をもとめてはたらきかけるときに使用する形である。

97) juru mitʃi akkuru ba:=ja pabu=ne: ki: hikir-i=jo:.

夜 道を 歩く ときは ハブに 気を つけるよ。

98) juhur-aN=gutu ʃigutu ʃir-i.

休んでないで 仕事を しろ。

99) ura=N guNda mi-tʃi hu:.

お前も クジラを 見て こい。

100) aN midzi=ja num-u-na. numiba-ja huN midzi num-i.

あの 水は 飲むな。飲むなら この 水を 飲め。

禁止法

禁止形は、旧連体形に *na* をつけてつくる。強変化 *r* 語幹動詞は *runa* が *Nna* に変化した語形が現れる。

- 101) *abuna-ha-tu mitʃi=nu suba=hara=ja akk-u-na.*
危ないから 道の 側は 歩くな。
- 102) *iNkari=jas-sa:hutu hatadi:=ʃi=ja mut-u-na.*
こぼれやすいから、片手では 持つな。
- 103) *ukaha:hutu warabi:=ja hu-i-N-na.*
危ないから、子どもは 来るな。
- 104) *p'iNgi-to:ru ma:uta=Nkai kamimuN kura:s-u-na.*
野良猫に 食べ物を 食わすな。

勧誘法

勧誘形は、動作の実現をもとめて、二人称に対して一緒に動作をするようはたらきかけるときに使用する形である。

- 105) *kamimuN mut-tʃi umi=Nkai ik-a:.*
食べ物を 持って、海へ 行こう。
- 106) *nimutʃi puka=Nkai ida-tʃi ja:=nu utʃi hatadzik-i=ja.*
荷物を 外に 出して、家の 中を 片づけよう。
- 107) *dzikaN=nu a-i-hutu godzi=ga:de: terebi mij-a=ja:.*
時間が あるから 五時まで テレビを 見ようね。
- 108) *aN jaNkwa:=Nta:na: paibe:ku: ʃij-a:=ja:.*
あの 小屋まで 駆けっこ しようよ。

疑い形

- 109) *na:taN p'i:ku nai-ka:.*
もっと 寒くなるかなあ。
- 110) *itʃi=ga do:hitʃi ʃi:-bus-u-ru gutu nai-ka=ja:.*
いつ 料理が できる ように なるかなあ。
- 111) *nu: ho:r-u-N=ga=ja:.*
何を 買おうかな。
- 112) *wa: kutsu=ja da:=ne: a-i-N=ga=ja.*
おれの 靴は どこに あるかなあ。

6 連体形

非過去形

- 113) ka:mi=nu hu-i-ru p'ama=ja huma daka:.
ウミガメが 来る 浜は ここか？
- 114) ami=nu pu-i-ru p'i:=ja saburo:=ja maNga=beN=du ju-da:-k-u-ru.
雨の 降る 日は 三郎は 漫画ばかり 読んでいる。

過去形

- 115) ?isa=nu t'a:-t'a-ru kusui num-i-ba no:r-u-N=do:.
医者 of くれた 薬を 飲めば 治るよ。
- 116) k'inu: ?ura=ga nara:-t'a-ru ?aN hoN, na: ju-da-N=do:.
昨日 あなたが 教えた あの 本、 もう 読んだよ。
- 117) hanako na-ta-ru ba:=ja iso:-ha:-ta-N.
花子を 生んだ ときは うれしかった。
- 118) wa:=ga k'wa:-tja-ru iru=ja dziru=ga.
私が 釣った 魚は どれ？
- 119) pari-to:-ru p'i:=ja saburo:=ja ?umi:=dʒi ?iru=beN=du kwa:-s-u-ru
晴れた 日は 三郎は 海で 魚ばかりを 釣る。
- 120) p'iNgi-to:-ru ma:uta=Nkai kamimuN kura:s-u-na.
野良猫に 食べ物を やってはいけない。
- 121) hitaku ni-to:-ru ujakk'wa ja-N=do:.
よく 似た 親子だよ。

7 中止形

中止形は、並列複文やふたまた述語文等の述語動詞といいおわり文の述語動詞の表す二つの動作や変化等の先行・後続、同時等の時間的な関係を表す形式である。奥方言には先行後続も同時もあらわすことのできる第二中止形と、同時を表す同時形、いい終わりの述語動詞の実現する時間の範囲を表す到達形がある。

先行後続

- 122) seNse:=ga pafi: k'u:-ti satʃi=ni ke:-taN.
先生が 戸を 閉じて、さきに 帰った。
- 123) purumuNradzio=ja hitʃi-ti mi:muN ho:-tit-t'a-N.
古い ラジオを 捨てて、新しいのを 買って きた。
- 124) kusui nu-dʒi pe:ku nibur-i:. /nibu-i-ba.
薬を 飲んで、早く 寝ろ。

- 125) basu urit-i at-tʃi ke:r-a:.
バスを 降りて、 歩いて 帰ろう。

同時

- 126) dza:=ne:=ja dzu:niN u-ti to:gura=ne:=ja t'aibeN=du u-i-ru.
座敷には 十人 いて、台所には 二人しか いない。
- 127) tʃaku=ja bi-tʃi kwattʃi: ka-da:k-u-N.
客は 座って、ごちそうを 食べている。
- 128) ari=ja ui-ti nit-to:-N.
彼は 酔って、寝ている。
- 129) p'ida=ne: gama=nu a-ti iri=ne:=ja paka=nu a-i-N.
東には 洞窟が あって、西には お墓が ある。

到達形

- 130) me:nitʃi ju:=nu kur-i=t'a:na puha=ne: aʃib-u-N.
毎日 暗く なるまで、 外で 遊ぶ。

8 条件形

原因理由形

- 131) dzikaN=nu a-i-hutu godzi=ga:de: terebi mij-a=ja:.
時間が あるから、五時まで テレビを 見ようね。
- 132) p'ani=nu tʃiraba-to:-hutu nu:=gara=ne: ʃij-a-ta-ru padzi.
羽が 散らばっているから、何かに やられたらろう
- 133) ha:ra=nu utʃi-to:-hutu hadzi tsu:ha-ta-ru padzi=ja:.
瓦が 落ちているから、風が 強かったんだらうね。
- 134) ʃita:-ʃi=tʃi ijat-ta-hutu ʃigutu saN.
してくれと 言われたから、仕事を した。

条件形

- 135) isa=nu t'a:-t'a-ru kusui num-i-ba no:r-uN=do:.
医者 の くれた 薬を 飲めば、治るよ。
- 136) um-i-ba hi:=hara du:na:=ʃi: hiN=nu mi:=ja uti:-N.
熟したら、木の 実は 自然に 落ちる。

仮定形／前提形

- 137) aN midzi=ja num-u-na. num-i-ba=ja huN midzi num-i.
あの 水は 飲むな。飲むなら、この 水を 飲め。

譲歩形

138) ujadui=nu tu-da-dzi=N tuiNkwa=ja tub-aN.

親鳥が 飛んでも、小鳥は 飛ばない。

139) ujadui=nu tu-dzi=N tuiNkwa=ja tub-aN.

親鳥が 飛んでも、小鳥は 飛ばない。

9 動詞の活用のタイプ

奥方言の動詞は、活用形の作り方によって分類すると、規則変化動詞と不規則変化動詞に大きく分けることができる。語幹は、語幹末が子音の子音語幹と語幹末が母音の母音語幹の二つに分けることができる。規則変化動詞は、語幹と語尾の作り方によって下位タイプに分けることができる。

規則変化動詞

奥方言の規則変化動詞は、標準語の強変化動詞と弱変化動詞に対応する。子音語幹の活用形をもつ標準語の強変化動詞は、促音や撥音で終わる音便語幹があるが、標準語の強変化動詞に対応する奥方言の動詞も音便語幹をもっていたが、音便語幹末尾の子音が脱落して母音語幹になっていて、子音語幹の活用形と母音語幹の活用形ができています。

母音語幹の活用形をもつ標準語の弱変化動詞に対応する奥方言の動詞は、勧誘形や命令形の語幹および否定形の語幹が強変化(r語幹)化した活用形に変化している。いっぽう、過去形や中止形は強変化化しておらず、母音語幹の活用形のままであり、結果として、子音語幹の活用形と母音語幹の活用形が共存する。

子音語幹

子音語幹は、語幹末の子音の違いによって、s語幹、t語幹、g語幹、m語幹、n語幹、b語幹、r語幹の変種がある。なお、k語幹には二つの下位の変種があり、r語幹には七つの下位の変種がある。g語幹動詞、m語幹動詞、n語幹動詞、b語幹動詞は、それぞれイ音便、撥音便が起きていた痕跡として語尾の頭子音に有声音化したdが現れ、k語幹動詞、s語幹動詞もイ音便が起きていた痕跡としてd₃が現れる。

母音語幹

母音語幹は、語幹末が短母音のタイプと長母音のタイプ、長母音の途中で語幹と語尾の境界のできるタイプの三つのタイプとがある。

不規則変化動詞

huiN(来る)は、基本語幹1、基本語幹2、連用語幹、音便語幹1、音便語幹2のいず

れの形も異なる、最も不規則な活用の型をしめす不規則変化動詞である。音便語幹1、音便語幹2を規則動詞のそれと比べてみると、語幹と語尾が音融合して変化した結果、語幹と語尾を分離できなくなっている。

suN（する）は、過去形と中止形が不規則な活用形をつくる不規則変化動詞である。否定形、勧誘形をつくる基本語幹1と第一命令形をつくる基本語幹2は強変化r2型と同じだが、終止形の語尾が異なる。

有情物の存在を表すu-iN（居る）は、強変化型のr語幹動詞に似た活用をするが、連用語幹u-と音便語幹ui-があり、r語幹動詞がいずれも同形になると異なる。

無情物の存在を表すaiN（有る）は、命令形や勧誘形等のムード形式、継続相や受身、使役等のアスペクトやヴォイスのカテゴリーをもたない等、形容詞と共通の特徴を多くもっている。命令形、勧誘形、否定形を欠いていることが不規則変化動詞として分類する理由でもある。

無情物の不存在を表すne:N（無い）も、命令形や勧誘形等のムード形式、継続相や受身、使役等のアスペクトやヴォイスのカテゴリーをもたない等、形容詞と共通の特徴を多くもっている。形容詞の語尾のhaNをもたない等、形式上の特徴から動詞に分類される。また、終結相の形式を作る語彙的な資源となる点は、第一継続相をつくるuiN（居る）、結果相をつくるaiN（有る）と同じく存在動詞としての役割りを果たしており、動詞として分類されるべきものである。

有情物と無情物が数多く存在することを表す動詞のguNdo:Nは、継続相の活用形しか持たない動詞で、u-iN（居る）、aiN（有る）と同じく命令形や勧誘形等のムード形式、受身、使役等のヴォイスやアスペクトのカテゴリーをもたず、それらの活用形がない。

本稿で使用した方言資料には、国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」（プロジェクトリーダー：木部暢子）による調査研究の成果もふくまれる。

動詞活用のタイプ

	基本語幹 1 否定形	基本語幹 2 命令形	連用語幹 非過去形	音便語幹 1 過去形	音便語幹 2 中止形
--	---------------	---------------	--------------	---------------	---------------

規則変化動詞

t 語幹	~t-	~t-	~t-	~t-t'	~t-tf
持つ	mut-aN		mut'-uN	mut-t'aN	mut-tfi
s 語幹	~h-	~s-	~s-	~t'	~tf
出す	idah-aN	idaf-i	idas-uN	ida-taN	ida-tfi
k 語幹 1	~k-	~k-	~k-	~t'	~tf
歩く	akk'ar-aN	akk-i	akk-uN	at-taN	at-tfi
k 語幹 2	~k-	~k-	~k-	~d	~d3
行く	ik-aN	ik-i	ik-uN	i-da:N	i-dzi
g 語幹	~g-	~g-	~g-	~d	~d3
漕ぐ	hug-aN	hug-i	hug-uN	hu-daN	hu-dzi
m 語幹	~m-	~m-	~m-	~d	~d3
飲む	num-aN	num-i	num-uN	nu-daN	nu-dzi
n 語幹	~n-	~n-	~n-	~d	~d3
死ぬ	fjin-aN		fjin-uN	fji-daN	fjidzi
b 語幹	~b-	~b-	~b-	~d	~d3
遊ぶ	afib-aN	afib-i	afib-uN	afi-daN	afi-dzi
r 語幹 1	~r-	~r-	~r-	~t	~t
買う	ho:r-aN	ho:r-i	ho:r-uN	ho:-taN	ho:-ti
r 語幹 2	~r-	~r-	~i	~t	~t
掘る	pur-aN	pur-i	pu-iN	pu-taN	pu-ti
r 語幹 3	~j-	~r-	~i-	~t	~t
捨てる	hitfij-aN		hitfi-N	hitfi-taN	hitfi-ti
r 語幹 4	~j-	~r-	~i:	~t	~tf
見る	mij-aN	mir-i	mi:N	mi-taN	mi-tfi
r 語幹 5	~j-	~r-	~i:	~tf	~tf
着る	kij-aN	kir-i	ki:N	ki-tfaN	ki-tfi
r 語幹 6	~aN	~r-	~e:	~t	~t
使う	hikaN		hike:N	hika:-taN	hika:-ti
r 語幹 7	~r-	~r-	~i-	~i-t	~t
居る	ur-aN	ur-i	ui-N	ui-taN	u-ti
ある	—	—	ai-N	ai-taN	a-ti

不規則変化動詞

する	fijaN	firiyo: fi:ja	suN	saN	fi:
来る	huraN	hu:	huiN	t'aN	tfi
無い	—	—	ne:N	ne:NtaN	
多い	—	—	guNdo:N	guNdo:NtaN	